

平成23年3月31日

平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 NPO 法人札幌ビズカフェ

事業名称 「食とICT」による「地域の健康と安全安心ブランドの推進」経済活性化事業

1 事業実施概要

ICTの活用により、「地域の食」をテーマとした情報発信・健康推進と経済活性化を目指す事業。安全で豊かな食材を生み出す自然環境、そこにかかわる生産者や加工者など様々な人々、地域ならではの料理やレストランなど、地域の食と健康をテーマとするコンテンツの収集とデータベース化、そして多様なメディア端末を通じた発信を、都市と地域の住民連携(CGM= Consumer Generated Media)で進めています。

また、情報発信とともに、インターネットモールや全国の飲食店、マルシェ等を通じて地域の食材・食品やオリジナルな食べ方を提供していきます。食糧基地北海道から広く食の安全・安心ブランドを地域の内外に推進しています。

2 目標の進捗状況

(1) 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
協議会開催	4回	4回	○	協議会開催議事録等
人材育成人数	40名/2地域	別海 68名 稚内 192名 計 260名	○	セミナー開催報告書
新規雇用人数	4名/2地域	別海 1名 稚内 3名	○	札幌ビズカフェ 2名 稚内駅前商店街振興組合 2名
投稿コンテンツ数	1,000件/年間	別海 2,642件 稚内 16,516件 計 19,158件/2ヶ月	○	サイトサーバーログ
サイトアクセス数	1,200,000件/年間	別海 170,706件 稚内 104,645件 計 275,351件/2ヶ月	○	サイトサーバーアクセスログ

(2) 進捗率の理由（達成状況が△又は×の場合はその理由）

予定していた事業をすべて計画どおりに実施した。

3 事業による成果

(1) 事業による成果（アウトプット指標）

項 目	成果指数	備考（成果指数の説明等）	調査時期
ポータルサイトへの情報 発信参加者数、発信件数、 アクセス件数	発信者数 7,629 人 発信件数 19,158 件 アクセス件数 275,351 件	サーバー・ログデータから 算出	2011 年 3 月
ヘルスダイエットアプリ ケーションへの参加、更 新、アクセス件数	参加者数 21 人 更新件数 429 件 アクセス件数 10,826 件	サーバー・ログデータから 算出	2011 年 3 月
ヘルスウォーキングアプ リケーションの利用者数、 利用件数	利用者数 30 人 利用件数 41 件	サーバー・ログデータから 算出	2011 年 3 月
情報発信・利用・表示端末 の設置・配布数と利用頻度	情報発信端末の設置数 136 ヶ所 情報表示端末の設置数 66 ヶ所 情報発信端末の利用頻 度。 1/3 が毎日利用。 1/3 があまり使ってい ない。	設置、配布一覧およびサー バー・ログデータから算出	2011 年 3 月
農水産品、特産品の販売商 品数、金額	商品数 53 販売金額 618,853 円	POS システム集計データ から算出	2011 年 3 月
農水産品、特産品の販売支 援システムの設置数	3 ヶ所	設置一覧	2011 年 3 月
農水産品、特産品の販売ア プリケーションの利用者 数、アクセス件数	利用者数 30 人 利用件数 41 件	サーバー・ログデータから 算出	2011 年 3 月
ICT 人材育成人数	260 人	育成人材一覧	2011 年 3 月
ICT 人材育成プログラム 開催数	8 回	報告書	2011 年 3 月
地域の食材を活かした健 康メニューの開発メニュ ー数、参加者数	開発メニュー数 15 参加者数 172 人	報告書	2010 年 12 月

(2) 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項 目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期
健康指導回数 の増加率	事業実施前：17 人 実施後：32 人 増加率(前月対比)：188%	健康指導機関におけ る相談件数の増加率 を調査	本事業実施以前の 一か月間と実施後 の一か月間の指導 件数実績を比較	2011 年 1 月、2011 年 2 月
健康プログラムの実践 者数	事業実施前月：0 名 参加者数：21 名	健康指導機関におけ る健康プログラム参 加者数を調査	本事業実施による 健康プログラム参 加者の実数	2011 年 3 月
客観的健康 度向上率	開始時基準で2.15キロの体 重減少（回答者平均値）	健康指導機関におけ る健康プログラム参 加者の体重を調査	体重測定。但し食 事、運動履歴など の健康度も考慮	2011 年 3 月
主観的健康 度向上率	事業実施前:5段階評価で開 始時が 3。実施後： 5 段階 評価で 4.1。(回答者平均値)	食と健康情報の発信、 利用にかかわった住 民の健康意識アンケ ートを実施	事業実施前と実施 後の意識変化につ いて 5 段階で回答 (3 が変化無し)	2011 年 3 月
発信コンテ ンツ件数（栄 養情報の発 信）	事業実施前：0 件 実施後：19,158 件	本事業全体により派 生したコンテンツ発 信数を調査	メディアプラット フォームサーバー のログデータ解析 により算出	2011 年 3 月
住民による 食事履歴の 書込数	事業実施前：0 件 実施後：429 件	ヘルスダイエットア プリケーションの利 用で派生したコンテ ンツ発信数を調査	メディアプラット フォームサーバー のログデータ解析 により算出	2011 年 3 月
農水産品・特 産品の売上 増加率	事業実施前：0 円 実施後：7,390,673 円	本事業により発生し た地域の農水産品・特 産品の売上を調査	POS 売上集計とマ ルシェ売上データ を合算	2011 年 3 月
地域におけ る新規雇用 創出数	事業実施前：0 人 実施後：4 人	本事業によりあらた に発生した地域の雇 用数を調査	ビズカフェ、商店 街で新規雇用が派 生	2010 年 10 月、2011 年 3 月
主観的 ICT 理 解度向上率	事業実施前:5段階評価で開 始時が 3。実施後：5 段階評 価で 4.2。(回答者平均値)	食と健康情報の発信、 利用にかかわった住 民の ICT 利活用意識 アンケートを実施	事業実施前と実施 後の意識変化につ いて 5 段階で回答 (3 が変化無し)	2011 年 3 月
ICT 人材の増 加	事業実施前：0 人 実施後：260 人（育成：60 名、活用：200 名）	本事業実施により育 成した地域 ICT 人材 の人数	セミナー、ワーク ショップ等の参加 者名簿	2011 年 3 月

4 システム設計書

別添2のとおり。

＜システム運用結果＞

1 システム運用で得られた成果

今回の事業着手に先だって、当法人では別海町の市民団体とは「情報化」をテーマとした、稚内市の市民団体とは「まちづくり」をテーマとした交流を進めていました。そのうえに立って、水産と酪農という類似の産業構造を持つ、両地域の広域な連携による、「食と健康の情報発信による地域経済の活性化」を目指す ICT システムの開発と運用を行いました。

その最大の事業成果は、「情報化とまちづくり」は密接な関係であり、相乗効果を生み出せるということを、両地域の市民団体が認識するとともに、あらたな主体的行動へとつながっている点です。

稚内市においては、「まちづくり」をテーマに活動している「街にいき隊」が本事業を契機として、地域の情報発信、地域の魅力再発見、食をテーマとした地域のブランド発信、健康をテーマとしたツーリズムのプログラム開発、あらたな加工食品の開発、などに意欲的に取り組みました。また、その過程を通じて地域のあらたな人材がまちづくり活動に参加することになり、活動の幅が広がっています。

別海町においては、「ブロードバンド利用環境の実現」を目的に活動していた生産者主体の「尾岱沼地区ブロードバンド化推進協議会」が本事業を契機として、ICT 利用環境の充実から生産者自らの情報発信、さらに地域の豊かな食材を活かしたあらたな食品や誘客事業の開発、などまちづくりへと活動テーマを広げています。

本来、食にかかわる生産者が食と健康の情報を消費者に伝えることは当たり前ののですが、生産、流通、消費の構造が高度化していくなかで、生産者は生産活動のみに特化して漁協や農協に生産物を納入するだけ、というのが実情となっています。しかし、本事業では ICT を活用してより多くの消費者に対して生産者が自ら生産地の情報を発信するとともに、ロコミポータルにより、幅広く消費者の声もまた聴くことができるようになったことは大きな成果でした。また、情報発信だけでなく、情報とともに地域の直売所や首都圏での EC 販売を行い、よりダイレクトな「食」の販売ルートを構築、一定の販売実績を得たことも大きな成果でした。

さらに、これまでまちづくり活動においてまったく関係性を持たなかった稚内と別海ですが、本事業を通じて交流が生まれており、相手の強み(稚内はまちづくり活動、別海は情報発信やイベント展開)を自分の地域の活動に活かそうという試みが生まれていることも大きな成果です。

最後に、以上のような定性的な成果が数多く生まれたことの要因として、札幌で先進的な ICT 技術を創造的な都市づくりに活かす取り組みをしている若い世代の方々に、事業推進メンバー(講師群)として参加いただき、事業のフレームづくりから人材育成、コンテンツ発信のフォローアップまで、何度も現地に足を運び、地域のメンバーと共に活動いただいたことが、各地域活動の活性化に大きく貢献しました。

2 平成 22 年度事業実施において明らかとなった課題

地域における情報化推進を担う ICT 人材の発掘、育成は、個人ではなくて、コアを担える「グループ」に対して行うべきと考えます。その理想的な要件は、ICT に対してではなく地域づくりに対して意欲の高いグループであること、草の根型でさまざまな階層の住民が参加していること、非営利なグループであっても地域に収益をもたらす出口モデルを志向していること、があげられるでしょう。

該当するグループが存在しない地域の場合は ICT 導入を試みる以前に、まちづくりやコミュニティビジネスなど地域の課題解決をテーマとした研究会等を開催するなどして、地域 ICT を担うコアグループの形成を図るとともに、企画立案やプロジェクト運営に関する知識習得を促すことで、大きな効果を得られることが明らかとなりました。

本事業においても、稚内地域には地域情報化に取り組むコアグループが存在せず、すでに一昨年からまちづくりグループの形成に取り組んできたことが ICT の面においても大きな成果となりました。いづれにしても地域地内において情報化推進を担う「信頼のコミュニティ」が存在していることが不可欠であるとともに、外部コミュニティ(本事業における NPO 法人札幌ビズカフェ)と地域コミュニティとの間にも、同様の信頼関係を築くことが、少子高齢化と生産年齢人口の減少を迎えた国内各地域の ICT 推進、そして地域の活性化においてきわめて重要な課題と認識します。

3 自律的・継続的運営の見込み

本事業の大きな特徴は、ユーザー主体の情報発信によって自律的・継続的な運営を目指している点です。そうした手法はこれまでも数多く試みられてきましたが、時間の経過とともに縮小、不活性化を辿るケースがほとんどであるのが実態です。

そこで本事業では、参加者が協力してひとつのポータルサイトを形成する従来の手法ではなく、多様な人々がそれぞれのサイトで個別的に発信するコンテンツが自然に寄り集まるメディアプラットフォームシステムを構築しました。ポータルサイトから各サイトへとリンクするのではなく、リアルタイムに更新され、偏在するコンテンツが組みあがって集合コンテンツとしてポータル化する仕組みとなっています。

それにより、自律的・継続的な情報発信と交流の拡大が見込まれます。また、本事業で構築したクラウドサーバーは、ストレージやデータベースなど負荷の大きな機能をオープン API の活用により外部資源化して維持コストを抑えている点も継続的運営の大きな利点です。

さらに、食と健康をテーマとした情報発信とともに、その地域にしかない食材のあらたな食べ方(レシピ・メニュー開発、加工食品開発)や、流通の仕方(マルシェ、飲食店向け EC)など、独自のビジネスモデルを設定しており、その面からも持続的な運営が期待できます。

食と健康情報の発信・レシピ開発については住民主体のまちづくりグループが、食資源の販売・プロモーションについては直売所やまちづくり会社が担当しますが、両者の間を橋渡しする人材が稚内、別海ともに育っているために、地域情報化と物産振興の連携がスムーズに行われると期待できます。また、両地域の本事業を担当する自治体窓口が、情報化担当セクションではなくて農商工担当セクションであることも、事業継続の面からも有効と考えます。

4 今後の展開方針

本事業に着手して痛感するのは、情報発信による健康づくりの重要性は地域で十分認識されているものの、地域経済が冷え込んでいるなかでは、事業実施によるまちの PR 効果だけでなく、具体的な経済効果が生まれることへの期待が大きいことです。

とは言っても、「金額的規模の大きさ」を期待されているのではなく、あらたな食資源の活用、顔の

見える販路の拡大、都市部との交流型ツーリズムの実現など、「インターネット時代、グローバル時代、に見合った新しい手法によるまちづくりの実践」です。これは政府が進める農林水産業の六次産業化の流れとも符合する流れであると認識します。

そうした期待に応えるべく、本事業では本年度の取り組みの延長線として次年度では、地域の食材を活用した独自のコンセプトに基づく洋風の料理や食品群の開発、ここにしかないあらたな提供方法の開発(たとえば登録したユーザーに競り市場からリアルタイムな食材情報を発信するなど)、オリジナルなプログラムに基づいたヘルスツーリズムの実施、など ICT による地域経済の活性化を図れるように取り組みます。

同時に本年度の事業で得られたノウハウ、システム、ビジネスモデルを他地域に提案し、その地域に適した内容にカスタマイズし、実践する計画です。

5 その他

報道内容	新聞	日付	掲載面
12月04日稚内「食と健康セミナー」開催告知	日刊宗谷	2010年11月26日	
	北海道新聞朝刊	2010年11月27日	25頁
12月04日稚内「食と健康セミナー」開催記事	北海道新聞朝刊	2010年12月06日	23頁
	日刊宗谷	2010年12月07日	
	稚内プレス	2010年12月08日	
	読売新聞	2010年12月09日	29頁
12月19日別海「食と健康セミナー」開催告知	北海道新聞朝刊	2010年12月17日	24頁
12月19日別海「食と健康セミナー」開催記事	北海道新聞朝刊	2010年12月20日	25頁
12月23日稚内「地域メディアプロデュース講座・ワークショップ」開催記事	北海道新聞朝刊	2010年12月24日	21頁
	日刊宗谷	2010年12月24日	
1月09日別海「地域メディアプロデュース講座・ワークショップ」開催記事	北海道新聞朝刊	2011年1月12日	20頁
3月05日稚内「ヘルスツーリズムセミナー」開催記事	日刊宗谷	2011年3月06日	

<人材育成状況説明書>

①申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

1 ICT人材の育成人数

ICT人材育成プログラム	人数	主な属性
11月23日稚内「地域メディアプロデュース講座・事前ワークショップ」	20名	市民団体「街にいき隊」のメンバー(商店主、公務員、学生、ジムインストラクター等)
12月04日稚内「食と健康セミナー」	80名	市民団体「街にいき隊」のほか、生産者、水産会社、団体職員、主婦、子供、市役所職員
12月19日別海「食と健康セミナー」	20名	酪農家を主体とする生産者グループ
12月23日稚内「地域メディアプロデュース講座・ワークショップ」	25名	市民団体「街にいき隊」
1月09日別海「地域メディアプロデュース講座・ワークショップ」	38名	尾岱沼地区BB化推進協議会
2月11日稚内「ダイエットダービー」オープニング式	20名	水夢館利用一般市民、栄養士、看護師
2月25日別海「ヘルスツーリズムセミナー」	10名	栄養士、体育施設職員
3月04日稚内「情報発信ワークショップ」	11名	市民団体「街にいき隊」
3月05日稚内「ヘルスツーリズムセミナー」	56名	市民団体「街にいき隊」および体育施設職員
合計	280名	内訳：別海68名、稚内212名

2 ICT人材の育成方法

主催	講師	育成対象・目的	カリキュラム・育成方法
ビズカフェ、街にいき隊、まちづくり稚内、稚内市、等	札幌市立大学講師、札幌のクリエーター、アーティスト等	本事業のオリエンテーションと地域情報発信の担い手発掘	11月23日／稚内（詳細は実施報告書に記載） 「 地域メディアプロデュース講座・事前説明会 」 ・ICT事業についての説明 ・まちづくりと情報発信の取り組みの事例紹介（↑資料配布とスライドプレゼンで実施） ・質疑応答
	東京の料理写真家、ベルエポック調理専門学校の講師、学生	生産者と一般市民を対象に地域の食材を活かした健康料理のレシピ紹介、試食を行うとともにICTの利活用を啓蒙	12月04日／稚内（詳細は実施報告書に記載） 「 食と健康セミナー 」 ・食材を活用した地域ブランド発信についての対談 ・ICT事業の紹介 ・稚内の食材を活かした健康レシピの発表 ・上記レシピの試食会および名刺交換、交流会

	札幌市立大学講師、札幌のクリエイター、アーティスト等	地域情報発信の担い手に対する ICT リテラシーの育成	12 月 23 日／稚内（詳細は実施報告書に記載） 「 地域メディアプロデュース講座・ワークショップ 」 ・メディアプラットフォームシステムの説明 ・CGM コンテンツの特徴と活用事例紹介 ・地域の魅力発信についてのグループ討議 ・ユーザーマニュアルの配布と説明 ・グループ単位のコンテンツ作成ワークショップ ・成果発表とディスカッション
	水夢館インストラクター		2 月 11 日／稚内 「 ヘルスダイエットダービー 」オープニング式 ・ICT 事業の紹介 ・ヘルスダイエットアプリケーションの利用説明 ・情報発信ツールの操作説明とマニュアル配布 ・ダイエット運動の体験
	札幌市立大学講師(デザイン学部)		3 月 04 日／稚内（詳細は実施報告書に記載） 「 情報発信ワークショップ 」 ・ICT ツール活用上の疑問点、課題点などを整理 ・ユーザーマニュアルの配布と説明 ・コンテンツ作成のワークショップ
	日本ヘルスツーリズム推進機構、JTB コミュニケーション講師	地域の旅行関係者、地域情報発信の担い手に対する、まちづくりのテーマ開発の啓蒙	3 月 05 日／稚内（詳細は実施報告書に記載） 「 ヘルスツーリズムセミナー 」 ・ヘルスツーリズム、全国の成功モデルのセミナー ・ヘルスウォーキングアプリケーションを使った「まちなか健康ウォーキング」の体験 ・グループに分かれた、地域の魅力を発信するヘルスツーリズムのプログラム開発ワークショップ
ビズカフェ、別海町観光協会、尾岱沼地区 BB 化推進協議会、等	札幌市立大学講師(看護学部)、ベルエポック調理専門学校の講師、学生	生産者を対象に地域の食材を活かした食品開発と情報発信の重要性の啓蒙	12 月 19 日／別海（詳細は実施報告書に記載） 「 食と健康セミナー 」 ・地域の食材と健康機能性についてのセミナー ・ICT 事業の紹介 ・稚内の食材を活かした健康レシピの発表 ・上記レシピの試食会 ・グループに分かれた地域の食材を活かした健康メニューの検討ワークショップ
	札幌市立大学講師、札幌のクリエイター、アーティスト等	地域情報発信の担い手育成	1 月 09 日／別海（詳細は実施報告書に記載） 「 地域メディアプロデュース講座・ワークショップ 」 ・メディアプラットフォームシステムの説明 ・CGM コンテンツの特徴と活用事例紹介

			・地域の魅力発信についてのグループ討議 ・ユーザーマニュアルの配布と説明 ・グループ単位のコンテンツ作成ワークショップ ・成果発表とディスカッション
	日本ヘルスツーリズム推進機構講師	地域の旅行関係者、地域情報発信の担い手に対する、まちづくりのテーマ開発の啓蒙	2月25日／別海（詳細は実施報告書に記載） 「ヘルスツーリズムセミナー」 ・ヘルスツーリズム、全国の成功モデルのセミナー ・地域の魅力を発信するヘルスツーリズムのプログラム開発ワークショップ
ビズカフェ	札幌市立大学講師、札幌のクリエイター、アーティスト等	稚内、別海、両地域の情報発信モニター参加者のICT利活用フォローアップ	12月～3月 ・インターネットを通じたメール、ツイッター等でのフォローアップ

3 1で育成等したICT人材の活用人数

※ポータルサイトへの情報発信参加者数(～3/08)から算出

対象地域	延参加人数	主な属性
稚内市(12/21～)	6,689人	市民団体「街にいき隊」の会員約20名(稚内駅前通り商店街の商店主、地域FMパーソナリティー、ジムインストラクター、学生、公務員、ホテル経営者等)を中心に、一般の市民、酪農経営者、公務員、主婦、
別海町(1/07～)	940人	尾岱沼地区BB化推進協議会の会員約20名0、生産者グループ他

4 ICT人材の活用方法

上記2.のカリキュラムを通じて育成したICT人材が、中心的なコアグループとなって「地域の食と健康」をテーマに情報発信を行っています。

「地域の食」というわかりやすく、親しみやすいテーマであること、本事業で開発した「MVNO/3Gデータ通信システムおよび専用アプリケーション」が、誰でもまたどこからでも簡単に情報の受発信が出来る仕組みであることなどから、ICT機器等に不慣れだった人や情報発信に関心のなかった人も、本事業で貸与している端末を活用して積極的に情報発信を行い、地域ソーシャルコンテンツのポータルサイト「LOHABUU 稚内」「LOHABUU 別海」を中心となって盛り上げています。

そうしたグループが中心的な役割を担って、またあらたな人材を発掘、育成していく良い循環が生まれることを目指しています。

また、本事業が契機となり、都市(札幌)と地域の人たちが交流することによって、外からの視点を活かして地域の魅力の再発見、洗い直しを行うことが出来ました。

地域の食材を活用したあらたなメニュー開発、マルシェでの地域の食と健康のアピール、地域イベントでの実演販売など、育成したICT人材はICTの利活用においてだけでなく、地域の経済活性化への取り組み全般に中心的な役割を果たすようになりつつあります。

5 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

今年度の事業では「食と健康」×「ICT」というテーマ設定(枠組み)のなかで、地域のリーダー役、インフルエンサー的な人材の募集、育成を行いました。その結果、主体的に情報発信を行う市民、住民のコアグループが稚内、別海のそれぞれの地域に育ちました。

次年度ではコアグループを中心に、テーマの枠組みを「食と健康」から、「日常の暮らし」×「ICT」まで広げて、より幅広く地域 ICT 人材の育成を図ります。その際、コアグループが主体となつてあらたな人材の募集、育成を行います。ロコミポータルサイトの利点を活かして、あらたに加わる ICT 人材のリテラシー向上とサポートを、サイトを使って行います。

また、地域で開催されるフェスティバル等のイベントにブース出展を行い、取り組みを紹介します。さらに、だれでも簡単にコンテンツを発信できる利用体験、地域の食材を活かした健康レシピの紹介と試食など、より多くの方々に ICT の利活用を啓蒙するとともに、その活動を今年度育成した ICT 人材が担う計画です。

主催	講師	育成対象・目的	カリキュラム・育成方法
ビズカフェ、 両地域の連 携団体、行政 機関、等	大学講師、クリ エーター、アー ティスト、調理 専門学校、料理 家、等	より幅広い ICT 人材 の発掘、育成	・地域のフェスティバル等への出店、ワークショップ、 情報発信、健康メニューの試食販売、の実施(別海ホタ テまつり、別海マラソン、稚内南極まつり、稚内×オホ ーツクぐるめバトル) ・ICT 利活用を啓蒙促進する恒常的なカフェスペースの 開設とユーストリーム放送などコンテンツ発信の強化
	コンサルティング 会社、マーケ ティング企業講 師	地域の食材を活かし たブランド開発と情 報発信、経済活性化 の担い手人材の育成	・地域ブランド開発、EC マーケティング、販路開拓に関 するセミナーとワークショップの開催 ・加工食品の試作、ブランド開発と情報発信のフォロー アップ ・ICT システムを活用した販売促進を強化する人材育成、 サポート

②事業運営主体におけるICT人材の育成・活用内容

1 ICT人材の育成人数

育成したICT人材		属性
新規雇用	2名	札幌ビズカフェ雇用職員(20代男性、30代女性)
新規雇用	2名	稚内駅前商店街振興組合雇用職員(20代男性、20代女性)

2 ICT人材の育成方法

上記4名も、「申請主体におけるICT人材の育成・活用カリキュラム」に共に参加しました。さらに以下のOJT研修を別途、行いました。

研修場所	育成者	育成内容
札幌ビズカフェ	複数のビズカフェ理事	・会計管理の原則 ・ICTツールの操作方法 ・企画の立案、まとめ方、書類作成の方法
稚内駅前商店街振興組合	ビズカフェ理事、街に行き隊隊長、商店街組合理事長、ビズカフェからの業務再委託先	・ICTツールの操作方法 ・POSシステムの操作方法 ・ウェブ発信技術の習得 ・ユーストリームサイト構築の手法
別海町観光協会	ビズカフェ理事、別海町職員、観光協会職員	・ICTツールの操作方法 ・コンテンツの企画、取材の進め方

3 1で育成等したICT人材の活用人数

活用したICT人材		属性
新規雇用	2名	札幌ビズカフェ雇用職員(20代男性、30代女性)
新規雇用	2名	稚内駅前商店街振興組合雇用職員(20代男性、20代女性)

4 ICT人材の活用方法

育成したICT人材を地域情報の発信、まちづくり推進のコーディネーターとして位置づけ、「稚内」「別海」それぞれの地域において、地域住民との良好な関係性を築くとともに、地域関係者との調整、ICT機器等の操作・利用支援、地域情報の発信等を行いました。

対象人材		活動内容
稚内	ビズカフェ職員1名	・食と健康情報の発信、またその連絡調整作業 ・セミナー、ワークショップ、マルシェ開催の事務局作業 ・あらたなまちづくり活動の企画立案、コーディネート
	商店街職員2名	・食と健康情報の発信 ・POSシステムのオペレーション
別海	ビズカフェ職員1名	・食と健康情報の発信、またその連絡調整作業 ・セミナー、ワークショップ、マルシェ開催の事務局作業 ・あらたなまちづくり活動の企画立案、コーディネート

5 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

本年度の事業では稚内、別海の両地域に当法人の専任担当者を一名ずつ配置し、ICT人材としての育成を図りました。それにより両名共に、コンテンツの企画から、取材、作成、配信までの一通りのプロセスを賄うことができるようになりました。

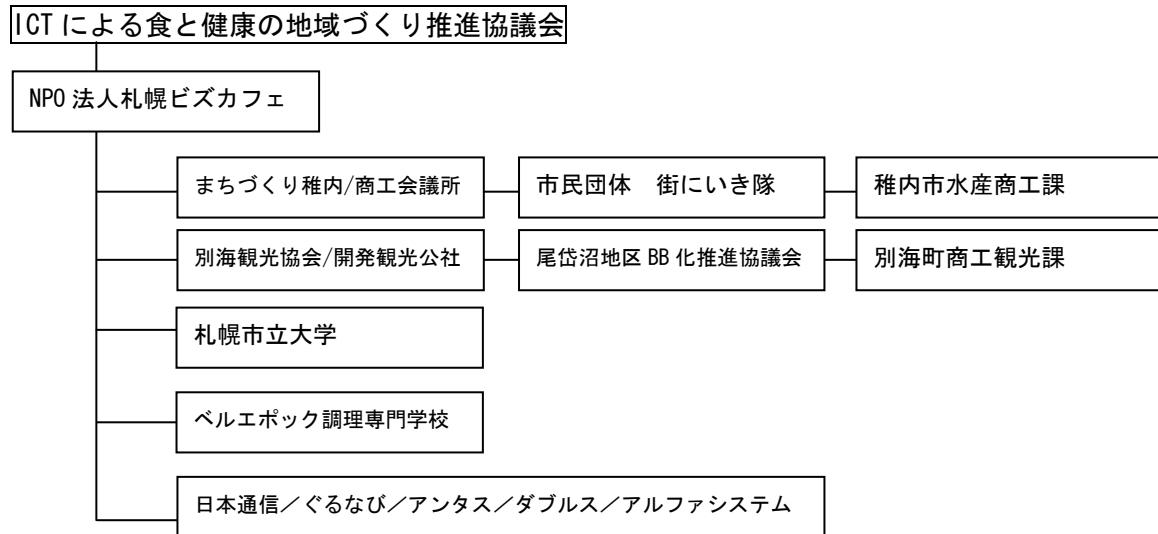
次年度では、別海町の担当者は町の観光情報の発信を担う中核人材として活動します。稚内の担当者は引き続きICT利活用のサポートを行うとともに、本事業成果の他地域への展開をサポートします。また、稚内市の商店街振興組合で緊急雇用したICT人材を、次年度も継続的に雇用するとともに、本事業のICT利用を促進する人材としての育成も図り、情報発信と商店街活性化の相乗効果を発揮するように取り組みます。

対象人材		活動内容
稚内市	ビズカフェ職員 1 名	・セミナー、ワークショップ、マルシェ開催の事務局作業 ・あらたなまちづくり活動の企画立案、コーディネート ・他地域への本事業成果の導入提案、支援
	商店街職員 2 名	・食と健康情報の発信 ・あらたな地域 ICT 人材の発掘と育成 ・POS システムのオペレーション ・セミナー、ワークショップ、マルシェ開催の事務局作業 ・地域の食材を活用した加工食品の開発 ・地域の食と健康をテーマとしたツーリズムの推進 ・ICT を活用した地域の健康プログラム(ダイエットアプリ、ヘルスウオーキングアプリ)の利用推進、機能改善
別海町	観光協会職員 1 名	・食と健康情報の発信、またその連絡調整作業 ・セミナー、ワークショップ、マルシェ開催の事務局作業 ・あらたなまちづくり活動の企画立案、コーディネート ・地域の食材を活用した加工食品の開発 ・地域の食と健康をテーマとしたツーリズムの推進 ・ICT を活用した地域の活性化プログラム(セリ市場からの会員制直販等)の企画、実施
	ビズカフェ職員 1 名	・食と健康情報の発信、またその連絡調整作業 ・セミナー、ワークショップ、マルシェ開催の事務局作業 ・あらたなまちづくり活動の企画立案、コーディネート ・他地域への本事業成果の導入提案、支援

<実施体制説明書>

1 実施体制

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	ICTによる食と健康の地域づくり推進協議会	全体の方向性、重要事項の決定、進捗状況の確認
2	NPO 法人札幌ビズカフェ	全体のプロジェクトマネジメント、会計監理
3	まちづくり稚内/商工会議所	稚内地域における連携窓口機関
4	市民団体 街にいき隊	稚内地域における連携市民グループ
5	稚内市建築産業部水産商工課	稚内地域における行政支援窓口
6	別海町観光協会/開発観光公社	別海地域における連携窓口機関
7	尾岱沼地区ブロードバンド化推進協議会	別海地域における連携市民グループ
8	別海町産業振興部商工観光課	別海地域における行政支援窓口
9	札幌市立大学	全体のアドバイス、コンテンツ開発支援
10	ベルエポック調理専門学校	コンテンツ開発支援、プロモーション支援
11	日本通信	MVNO システム、アプリケーションシステムの開発
12	ぐるなび	産直支援システムの開発、プロモーションの実施
13	アンタス	メディアプラットフォームシステムの開発
14	ダブルス	食と健康コンテンツの開発
15	アルファシステム	情報発信、表示ツールの整備

事業実施進捗表

実施内容	9月	10月	11月	12月	H23/1月	2月	3月
協議会等設立・準備 会合	→						
協議会等開催			○	○	○		○
システム構成の検討・決定	→						
システム構築に係る 競争入札	→						
システム設計、開発	→	→	→	→	→	→	→
コンテンツ開発		→	→	→	→	→	→
システム稼働				→	→	→	→
産直プロモーション			→	→	→	→	→
人材育成・セミナー			→	→	→	→	→
報告書作成						→	→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

1. <http://wakkanai.thefareast.asia/> [地域メディアプラットフォームシステム 稚内]
2. <http://betsukai.thefareast.asia/> [地域メディアプラットフォームシステム 別海]
3. <http://betsukai.thefareast.asia/bmg/> [地域メディアプラットフォームシステム BMG]
4. <http://www.youtube.com/user/LOHABUWakkanai> [動画自動生成システム 稚内]
5. <http://www.youtube.com/user/LOHABUUbetsukai> [動画自動生成システム 別海]
6. <http://mart.gnavi.co.jp/wakkanai/index.html> [週刊ぐるなび市場 稚内]
7. <http://mart.gnavi.co.jp/betsukaicho/index.html> [週刊ぐるなび市場 別海]
8. <http://healthlog.thefareast.asia/> [ヘルスダイエットアプリケーション 稚内]
9. <http://walking.thefareast.asia/> [ヘルスウォーキングアプリケーション 稚内]
10. <http://thefareast.asia/> [ブログパーツ配布サイト]